

## 維持透析患者におけるERCP後偶発症の検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-08-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 塩賀, 太郎 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00031917">https://doi.org/10.20780/00031917</a>

## 主論文の要旨

### 維持透析患者における ERCP 後偶発症の検討

東京女子医科大学消化器内科学教室

(指導：徳重教授)

塩賀太郎

東京女子医科大学雑誌 第 86 巻 第 2 号 49 頁～54 頁

(平成 28 年 4 月 25 日発行) に掲載

#### 【要旨】

【背景】内視鏡的逆行性胆道膵管造影 (ERCP) を用いた診断、治療は消化器内視鏡検査の中で偶発症のリスクの高い手技である。心疾患や腎疾患などの併存疾患は偶発症のリスクを上昇させることが知られ、維持透析患者はリスクが高いことが予想される。【目的】本研究では維持透析患者における ERCP の偶発症発症とリスク因子について検討した。【対象と方法】2006 年 1 月から 2014 年 5 月までの 8 年間に当院で ERCP を施行した透析患者 56 人に対して施行した 83 件の ERCP の偶発症発症率とリスク要因について、ERCP を施行した非透析患者と比較検討した。【結果】透析患者の偶発症発生率は発症 19.3%で、非透析患者と比較して有意に高く、急性膵炎が 8 件、消化管出血 4 件、誤嚥性肺炎 2 件であった。急性膵炎に関して有意差はないが、内視鏡的乳頭切開術 (EST) による消化管出血は透析患者で有意に高率であった。透析患者における偶発症のリスク因子として、抗凝固薬、抗血小板薬、心疾患、糖尿病合併、透析期間の各項目について検討し、EST における消化管出血に関して心疾患合併で有意に高率であった。透析期間は、急性膵炎と消化管出血の発症に有意な関係を認めなかった。【結語】透析患者では、ERCP 関連の偶発症発症リスクは高く、施行に際しては十分な注意と対応が必要である。